

平成29年度第1回おおいた子ども・子育て応援県民会議

日時：平成29年8月3日（木）

13：40～15：30

場所：大分県庁 本館正庁ホール

【羽田野主幹】 本日の会議の進行を務めますことも未来課の羽田野と申します。よろしくお願ひします。

始めに、本日の会議は公開で行うこととしております。一般の方の傍聴席、報道席を設けておりますことを、ご了承ください。また、議事録・資料につきましても、原則としてすべてホームページに掲載をいたします。また、本日は委員改選後初めての県民会議でありますので、本来であれば、知事からお一人ずつ任命状をお渡しするべきでところでありますけれども、時間の都合もございますので委員名簿とともに、こちらよりお配りさせていただきます。よろしくお願ひします。

なお、お手元の配席図の右下にありますとおり、本日は大内委員、篠原委員、藤田委員、正本委員が所用のためご欠席です。また、古谷委員の代理として松尾様にご出席をいただいております。よろしくお願ひします。よって、28名の委員の皆さまのうち、24名の委員の皆さまにご出席をいただいております、定足数でございます過半数を満たしておりますことをご報告申し上げます。

では、ただ今から平成29年度第1回おおいた子ども・子育て応援県民会議を開会いたします。まず始めに広瀬知事よりご挨拶を申し上げます。

【広瀬知事】 皆さん、こんにちは。お忙しいところ、またお暑い中、ご出席いただき誠にありがとうございました。今日は、おおいた子ども・子育て応援県民会議の29年度の初開催ということでございまして、どうぞよろしくお願ひ申し上げたいと思います。もう皆さんご存知のとおり、「安心・活力・発展の大分県づくり」というものを進めておりますけれども、中でもこの「子ども・子育て」につきましては、ぜひ「子育て満足度日本一の大分県をつくろう」ということで、特に力を入れているというところでございます。この県民会議を毎年やらせていただきまして、今までの子育てに対するご意見をしっかり具体化し、充実して、そして「子育てがしやすいな」と思っただけのような、そういう環境づくりに取り組んでいるところでございます。

大変嬉しいニュースがございまして、全国の人口動態統計を見ますと、昨年の大分県の合計特殊出生率でありますけれども、1.65 ということでございました。一昨年が 1.59 でございますから、その時には確か 14 位だったのでありますけれども、1.65 ということになりまして、全国で 7 位ということころまで急上昇しました。また 1.59 から 1.65、0.06 増えたわけですが、この上昇幅が全国一位ということでございまして、私どもが子育て満足度日本一を目指してた成果が現れてきたかなと感じているところでございます。

力を入れておりますのは、1 つはやはり子育ての経済的な負担をできるだけ減らしていきたいというものなのでありますけれども、保育費を、2 人目や 3 人目以降は減額ということで、経済的な負担を減らしていきたいと思っています。

それから保育の関係の制度ですけれども、これもこの子ども・子育て県民会議のご意見をいただいて、保育所の待機児童ゼロに向けて、今、保育所を作っております。担当の部長がおりますけれども、来年の 4 月には待機児童がゼロになるということで、公約をしているので、ぜひ頑張ってくださいたいところです。

それから病児保育、これにつきましても病児保育の体制を整えるということで、市町村に保育施設の増設をしているところでございまして、去年も 3 つ増やしたということでやらせていただいているところでございます。

それから、学校に行き始めて、行った後のお子さんの居場所をつくるということで、放課後児童クラブというものですけれども、これも整備を進めているというような状況でございます。とにかく子ども・子育て県民会議の皆さま方のご意見をしっかりいただきながら、幸せに子育てできるようにしっかりと力を入れていきたいというふうに思っているところでございます。

本年度も皆さま方のご意見をいただきながら、しっかりとやらせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

【羽田野主幹】 では続きまして、会長及び副会長の選任を行いたいと思います。配布資料に、1 枚紙で「おおいた子ども・子育て応援県民会議条例」というのがあります。会長、副会長の選任につきましては、条例第 4 条に基づきまして、委員の互選により選任することになっております。ここで、どなたか会長、副会長に立候補またはご推薦される方はいらっしゃいますでしょうか。

【神田委員】 もし事務局に案がございましたらお願いしたいと思います。

【羽田野主幹】 今、事務局の案を出してはどうでしょうかというご意見がありましたの

で、よろしいでしょうか。ありがとうございます。では、事務局の案といたしましては、別府大学短期大学部の学長、仲嶺委員に会長を、また大分大学教授の岡田委員に副会長をお願いできないかと考えております。いかがでしょうか。

【一同】 異議なし。

【羽田野主幹】 ありがとうございます。では、委員の皆さまから今、ご賛同いただきましたので、仲嶺委員に会長、岡田委員に副会長をお願いしたいと思います。それでは仲嶺会長、岡田副会長、前の席にお着き願えますでしょうか。

では、仲嶺会長に、就任のご挨拶をお願いします。

【仲嶺会長】 始めまして。今年度より別府大学短期大学部の学長を仰せつかっております仲嶺と申します。この度は、県民応援会議の会長にということでご推薦いただきまして、頑張ってお務めたいと思います。長年幼児教育に携わってきておりまして、待機児童、それから育成クラブさんの問題とかもいろいろな方のお話を伺いながらこれまでやってまいりましたので、またそういうことを生かしながら、こちらの会議にも貢献していければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【羽田野主幹】 ありがとうございます。続きまして、岡田副会長、お願いします。

【岡田副会長】 皆さまこんにちは。大分大学の岡田と申します。私は平成 10 年、上の子が 1 歳の時に、大分県に初めて転居をいたしまして。それまで大分県には来たこともなかったのですが、1 歳の子どもを抱えて「子育て大丈夫かな」と思って来たという記憶がございます。その後すごく恵まれて、私個人的には、「子育て満足度日本一」の県だと、自分の実感としては思っているのですが、いろいろ今大分県、それから市町村で取組をしていただいて、制度とか仕組みができていううえに、実際どんな子育てをめぐるコミュニケーションとかやりとりがあって、交流が生まれて、そしてその部分で「ああ、やっぱりいいな。大分県で子育てしていて助かるな」というふうな会話が見えるような、そんな会議にしていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

【羽田野主幹】 ありがとうございます。では、以降の議事進行は会長であります仲嶺会長をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

【仲嶺会長】 それでは早速議事に入りたいと思います。まず、本日の議事の進め方につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

【二日市課長】 こども未来課長の二日市でございます。どうぞよろしく願いいたします。本日の議事の進め方について、説明申し上げます。次第をご覧ください。まず議事の

(1) 行政説明といたしまして、資料に基づきまして説明させていただきます。その後、意見交換として、今回初めての委員の方もいらっしゃいますので、自己紹介を含めて2つのテーマに沿ってご意見をいただきたいと考えております。以上が本日の会議の流れです。どうぞよろしく願いいたします。

【仲嶺会長】 ありがとうございます。大まかな時間配分といたしまして、まず1番行政説明が10分程度、それから残りの80分程度が意見交換ということで、15時30分に閉会いたしたいと思っておりますので、円滑な運営にご協力のほど、よろしく願いいたします。

では、議事の行政説明につきまして、「おおいた子ども・子育て応援プラン(第3期計画)」等につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

【二日市課長】 では私から、掛けて説明させていただきます。どうぞお手元の資料1をご覧ください。

まず1ページ目をお開きください。おおいた子ども・子育て応援プラン第3期計画の体系・推進体制をお示ししております。お手元にお配りしております、この冊子、これがプラン本体でございますが、27年度から31年度までの子育て応援の県全体の計画をお示したもので、めざす姿は「一人ひとりの子どもが健やかに生まれ育つことができる社会」、基本目標を「子育て満足度日本一の実現」としております。この施策の評価の体系として、アウトプット指標とアウトカム指標を定めているのですが、総合的な評価、アウトカム指標がその下2ページにお示ししているレーダーチャートなどがございます。26年度から27年度、28年度の状況をこの表で示しております。特に右のレーダーチャートを見ていただくと分かりやすいかと思いますが、右上の「住んでいる地域の子育ての環境や支援への満足度が高い、やや高い」という人の割合が、26年度に比べてかなり上昇しております。

それに比べまして、その右下、保育所の入所待機児童数でございます。これがこの左の表では、③の保育所入所待機児童数ということで28年度の数字370人で34位、基準と比べても順位を落としているところで、実は平成29年の4月の時点でも、県全体で505人と待機児童が増えてきております。これに対しましては、大分市さんを中心に来年の春に向けて、待機児童がゼロになるように施設整備等を特に集中的に進めているところでございます。

また、レーダーチャートで表している左下の合計特殊出生率ですが、先ほど知事からも申しあげましたように、平成28年、2期目の数値は1.65と上昇幅が全国1位となっております。実は、平成29年の数字が少々思わしくないのですけれども、今年の4月5月の地

震の影響等も出ているのかなと、2月3月に生まれた子どもさんの数ですね、感じているところでございます。

次に、3ページをお開きください。次世代育成支援対策の関連事業、本年度の当初予算の状況なのですが、県民会議委員の皆さまからのご意見を元に、「こういう事業を進めております」というのを表示しております。

例えば、一番上の囲みの中で、○の3つ目、「企業と子育て家庭がWin-Winの関係でなければならない。ワークライフバランスについてもっと周知してほしい」というようなこともございましたので、29年度の関連事業の欄、上から3つ目、地域の子育てコミュニティづくり推進事業を進めております。この事業については後ほどもう少し詳しくご説明いたします。

また、真ん中の欄の四角、2つ目の一番上、「病気の子どもを看病することが当たり前の社会にしてほしい」。病児保育について、昨年度大変貴重な意見を頂戴しましたので、その右の四角の中3つ目、病児保育充実支援事業というのを改めて構築しております。このように、会議で頂戴しました意見を元に、関係の事業を進めているところでございます。

それでは、4ページ、この後、3つほど主な事業についてご説明申しあげます。まず、4ページの「保育の担い手確保」でございます。保育所の設置は、主に市町村が社会福祉法人等と協力して進めていただいております。施設整備関係ももちろん支援してございますが、特に、保育の担い手確保は、主に県が頑張っているところでございます。

下の4つ並んだ枠囲みの中の2つ目、保育士の処遇改善でございます。特に全職員に対する2%程度の29年度の平均給与アップに加えて、その下にございますように、副主任保育士等には月額4万円、職務分野別リーダーには月額5,000円等の予算措置をして、進めているところでございます。また、一番右の四角囲みの二重丸、子育て支援研修、これは、保育現場で、保育士さんをサポートする役割を果たす方々なのですけれども、昨年度、200名の定員に対して大変多くのご希望をいただきましたので、今年は400人養成することによって進めております。年度の前半と後半に分けて200名ずつなのですが、実は前半の分、200名の枠に268人のご希望をいただいていたので設定している会場に収容できませんので、全員の方に受講していただくようにしております。保育園などの人手不足の一助になればと考えております。

続きましてページをめくっていただきまして5ページでございます。「病児保育充実支援事業」として左下、表の一番下の所が28年4月の状況で、大分県内には24の病児・病後

児保育の施設がございました。昨年度県民会議で皆さま方から意見を頂戴しまして、強力に市町村に働きかけを行いまして、29年度の施設整備が、欄にございますように6カ所、新施設とそれから既存の施設を増設するというのがございます。それで最終的には29年度には6カ所のうち1カ所が増員・増築ということでございますので、29年度末には29カ所になる予定でございます。

それから6ページ、先ほど少し申しあげました「地域の子育てコミュニティづくり推進事業」として、男性の子育て参画を、父親だけではなくて働いている職場での理解ということも含めて男性の子育て参画の推進を今年度よりしてございまして、去る6月、父の日を前にして「ファザーリング全国フォーラム in おおいた」を開催いたしました。特に県や経済5団体、労働局、大分市の代表の皆さまにお集まりいただきまして、イクボス共同宣言をしてイクボスが進める男の働き方改革セミナーなどを進め、のべ2,500人のご参加をいただきました。もろもろの事業を進め、子育て満足度日本一の実現に向けて努力しているところでございます。駆け足でございましたが、説明は以上です。

【仲嶺会長】 ありがとうございます。ではただ今の説明につきまして、ご質問等ございましたらご発言をお願いいたします。

よろしいですか。それではご質問がないようですので、次の議事の「意見交換」の方に移りたいと思います。今回委員を改選して初めての県民会議ということですので、まずは委員お一人ずつ簡単な自己紹介をいただきまして、併せてこの会議に参加するにあたりましての意気込みや豊富、子育てに関する思い、何でも結構ですのでそういったような内容のお話をお願いしたいと思います。時間も限られておりますので、お一人1分程度というようなことでございますが、申し訳ございません。私のお隣から回していただいでよろしいでしょうか。

それではよろしく申し上げます。

【吉岩委員】 初めまして、大分県社会福祉協議会から今回委員に選任されてまいりました吉岩宏樹と申します。今回こういった会議に参加できることに非常に恐縮しておりますが、私自身も今2歳の子どもと、今度12月に2人目も産まれるということで、今、イクメンという言い方は、個人的には自分で言うのもちょっとあれなのですが、妻も働いていることでもありますので、私は核家族が非常に多い中で子どもと一緒に、大変なこともありますけれど、一緒に笑いながら毎日過ごしています。こういった会議の中でそういった意見もお話できたらと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。

【幸野委員】 こんにちは、公募委員の幸野です、よろしくお願いします。私は現在「おおいたパパくらぶ」というコミュニティで父親の子育て参画について活動しております。普通の会社員です。皆さまのように専門的な知識というのはなかなかないのですけれども、私も小学校4年と、今1年の娘がいるのですけれども、ひとりの父親として子育てに対する悩みとか、そういったものを、周りに若いお父さんお母さんもたくさんいますので、そういった意見を率直に、ダイレクトに伝えることができればいいというふうに思っております。

子どもルームを読み聞かせの後、たまに寄っているのですけれども、私は10年ぐらい前に子どもルームを知っていて。娘2人を連れて行っていた時に比べて、本当にお父さんが一緒になって子どもを連れて来ている割合が増えているなど本当に実感しています。そういう意味では大分県の子育て日本一を目指しているというのは、少しずつですけれども浸透しているのではないかと、活動していて実感しました。よろしくお願いします。

【三上委員】 大分合同新聞の記者をしています三上と申します。私は入社して13年になるのですけれども、教育関係とか福祉関係の記事を書いています、子育て支援の取材などもよくしていたのですけれども。家では今2歳と4歳の子どもを育てている母親で、1人目の子どもを妊娠してからは本当の第一線というか、現場からは配慮がありまして離れているところではあるのですが、自分はどういう働き方をしたいのかということと、どういう母親でありたいのかということ、そこには矛盾があって、日々どういうふうに行くべきか、というのを考えながら、何か納得しながら進めているような感じで。今年の4月から主人は近い県内なのですけれども単身赴任をしまして、私は今完全ワンオペ育児をしているところで。主人もフルに会社の仕事を受けていて、妻の立場としてもちょっと納得できない部分もあったりもするのですけれども、女性でも男性でも子どもが産まれたら働けないとか、働きづらいという社会も少し違うのではないかと思います、現実的な話し合いができたらいいなと思ひまして参加しました。よろしくお願いいたします。

【藤原委員】 大分県商工会議所連合会になるのですけれども、そちらからまいりました藤原と申します。この委員になって多分6年ぐらいになると思ひておまして、うちの職場の中で子育てをしながら正規職員を勤めている者が少ないのかなということで出させていただいております。職場の中では子育て満足度日本一が浸透していないのかなと思ひたりもしております。家では、子どもは今小学校から中学校へ、そして中学だった子がもう大学ということで、だんだんと大きくなって子育てから手が離れるところまできていると

ころです。子どもと一緒に私も成長しているかな、という思いがあります。

商工会議所というところは、企業の皆さまと接する機会が多いので、ワークライフバランス、それから働き方改革にもありますが、女性の職業参画というようにいろいろ、課題はいっぱいあるのですがなかなか進まないのが現実ではないかと日々職場の方とも言っております。皆さんのいろいろなご意見を色分けしながら2年間過ごさせていただきたいと思っております。よろしくお願いします。

【藤本委員】 大分県医師会を代表して参りました藤本保でございます。大分こども病院の院長で、小児科医をやっています。大分県医師会は大分県の健康に対する施策の推進に協力している団体であります。特にこの子ども子育て満足度日本一と、もう1つ、大分県が掲げております健康寿命日本一、というこの推進に全面的に医療面から関わっておる団体であります。

私個人としては小児科医をして子どもの救急、あるいは病児保育もやっております。障がい児施設も運営しております。実践する側、情報の組織を推進する立場として、そして個人として第一線でやっている立場から子ども子育て満足度日本一になるように意見を交換していきたいと思っております。よろしくお願いします。

【中村委員】 こんにちは。大分県PTA連合会母親部からまいりました中村裕子と申します。本日はよろしくお願いいたします。

私は実は結婚する前は勤めておりましたけれども、結婚してから専業主婦をしております。そのような私がこういった子育てと仕事の両立ということを話し合う会議に参加するというのはとても場違いな気がして、先ほどから緊張しているのです。

ただ子育てに関しましては、逆に私は仕事がなかったことから、おそらく学校に一番足を運んでいるお母さんでしたし、その足を運んでいく中で保護者の方が来られないで寂しそうにしているお子さんたち、逆に叱られなければいけない場面で叱ってもらえない、私からするとそういうお子さんはかわいそうだったのですけれども、そういうお子さんとか、逆に子どもたちが「家にお腹を空かせて帰るとお母さんがゲームをしているんだよね」という会話をしている部分とかを多く見聞きしてきました。その中で学校によく足を運んでいるものですから、PTAの中でもお役目をいただいて県の方にも出させていただいている状態です。

もう1点は、実は私は県外から嫁いでおりまして、今大学3年生になった上の娘が幼稚園に入る直前で大分県にまいりました。本当にお友達もいない、頼る人間も全くいない中

で泣きながら子どもの手を引っ張って病院に行って子育てをしたような期間もありました。そういった私の経験が何かお役に立てればと思って参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

【土居委員】 皆さんこんにちは。大分県私立幼稚園連合会の会長を務めております土居孝信と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

この会は本当に興味のあるところで、もう3期目ということでお世話になっております。今日のご説明の中で特に僕がこのチャートの中で注目したのは⑨と⑩の自己肯定感が持てる子どもたちを育てよう、という話し合いが前々回もありました。そして挑戦する心を子どもたちに伺うこともありました。なかなか数字では評価できないのですが、学校教育現場、幼児教育現場、そして子育ての保護者の皆さまがこういう意識を持って子育てに取り組むということが非常に大きいのではないかと思います。

そしてパーセンテージのここを上げるというのは、意外とアンケート調査では難しかったと思うのですが、随分シンクロしていて、今回文科省の方でも実際に非認知能力に注目したような取組が進められているのですが、やはりやればできるとか頑張れるという気持ちを育てる社会をつくっていくということがやはり子育て満足度日本一にも近づいてくるのではないかとこのように思っております。

そういう意味で子育て現場や教育現場からの意見を、私も出させていただきたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【富高委員】 皆さんこんにちは。新しく委員に仲間入りをさせていただきました佐伯市の富高と申します。私は114人の子どもたちが通っている「つるおか子どもの家」という児童クラブと、それから佐伯ファミリーサポートセンターの2つの運営を仲間とともにしております。私がこういう会議に来ていつも思うのは、子どものことを話す会議の場所ですが、ここには子どもはおられません。私はいつも114人の子どもたちの声に囲まれていますので、子どもたちの声を、子どもたちの思いを、子どもたちの願いを、こういう所で私が子どもたちに代わって伝えられたらいいなというふうに思っています。

私は大分県も、それから私の住む佐伯市も子育てをするということにおいてはとても満足できる、とても良い故郷だというふうに思っています。ただ、そのところ、この途切れないサービスを子育て中の方がどれくらい理解されて、どれくらい感謝をして、今子育てをしているか。周りに感謝をしていき、周りの人とつながるといって、そういう基本的なところがどうなのだろうという思いを、子どもたちに囲まれながら持っています。できれ

ば子育て満足度日本一という言葉とともに、子育て満足度日本一、子どものことを考える会でありながら、子どもの育ち、子ども自身が育つというところがこの計画のどこにあるのでしょうか。私はそう思います。子どもの心を置き去りにしない、充実した計画ができるように一生懸命勉強させていただきます。どうぞよろしくお願いします。

【重石委員】 皆さんこんにちは。大分市子どもすこやか部の重石と申します。この4月からお仲間に入れていただくこととなりましたので、どうぞよろしくお願いします。子どもすこやか部というのは今年の4月に設置されまして、私が初代の部長ということで荷も重いのですが、こういった場に出向いて勉強しながら、大分市の子育て支援を充実させていきたいと思っております。委員さん方お一人お一人のご挨拶の中に、先ほど中村委員さんが「専業主婦で子育てをしているということに肩身が狭い」というようなことをおっしゃっていましたが、私は決してそんなことはないと思っております。

私は働きながら3人の子育てをしまいいりましたけれども、育児休暇中に子どもと本当に向き合っている時がとても大変でした。本当に在宅で子どもに専心して子育てに取り組んでくださっている方のご苦勞をどうしたら支援できるかということ、そういうことを考えることも行政の大きな1つの役割だと思っております。それで地域の子育てサロンの応援、それから自由にお子さま連れで相談や遊びに行けるこどもルーム事業などの充実にも努めているところです。もちろん子育てをしながら働き続けることができること、男性も女性も、そして子どもたちも皆さんがイキイキと生きていける社会をつくるのが大きな務めだとも思っておりますので、待機児童解消に向けて、先ほど知事からそこはもっと頑張らないと、というようなこともありました。目標は見失わずに精一杯頑張っていきたいと思っておりますので、保育所、児童育成クラブの待機児童解消にも全力で取り組んでまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【佐藤委員】 はじめまして、公募委員になりました佐藤政和と申します。よろしくお願いします。夢だった保育士になりまして、昨年春から保育士として今頑張っています。その前には18年ほど介護の方をやっておりまして、訪問介護、デイサービス、特別養護老人ホームと、デイの仕事をしておりました。私はもともと大分ではなく、東京で育ちまして、6年ほど前に大分の妻の実家である宇佐市に移住しまして、そこで生活を送っています。その際に東京にいる時に地域の方々とお付き合いがなく、うちの実家は少し遠かったもので、妻と私と2人で子育てをしておりまして。その時に関わった自分の経験を少しでも話せて役に立てたらと思っております。

あと、今保育士でありまして、保育所はいろんなことを教えてもらう場所なのだということが現場に入って初めて分かりましたので、私の方で保育の言葉が伝えられたらいいかなと思っております。

また、全然関係ないのですけれども、副業で私はピエロをやっておりまして、夏祭りとかお年寄りのボランティアとして福祉連携とかをして、少しでも皆さんが笑顔になれるかなということもやっております。この場には、少し場違いな人間とは思いますが、今後ともよろしく願いいたします。

【坂本委員】 おおいたおやじネットワークの坂本と申します。県内のおやじの会の情報共有、そんな感じのグループで、基本的には先ほどのクラブのようなものもあったのですが、最近ではほぼ友達など父親がらみとかそういうものに限ってやっています。結構、おやじは本当はいろいろ言いたかったり、やりたいことがいっぱいあるのです。子育てに関しても、でもどうも少し迷惑みたいなので、何も言わんとこうとしているわけです。そして例えば、こうすればいいのにと思いながら黙っているのですよね。とりあえず働いて給料を渡しておけばいいかと思う。結局は子どもが一番可愛いわけです。子どものためにどうしたらいいか。そうしたら、女房に怒られてもへいへい、となるかもしれないし、ある時は女房を少し注意した方がいいかもしれないし、そういう話をしています。若いお父さんとかを見ていると最近では子育てしている時に、それはよくないなということがあってもいいかもしれませんが、子育ての方法が違うという場合があります。けれどよく考えたら時間の差がある、おやじタイムラグ。結果的に僕らが思うのは、やはりお父さんはなかなか不自由して子どもを育ててみないとしゃべらなきゃいけないという人はあまりいない。会社で家のことをしゃべっても、もう何かつまらないわけです。結局お父さんたちは飲み会があって、おやじたちは酒を飲んでしまうから、うちの子がかわいい、うちの子がかわいいと、女房そっちのけで。いろいろ話をするだけで解決することが多いのだなということが非常にあって、おやじはどうなのかなと思うお父さんが多いのです。でもそうではなくて、みんな同じなのだよ、と。そういうところをアピールして。でも実際に校長先生なんか飲んででも話も合う。PTAと学校が対立するところもあって、そんなことはあり得ないわけです。子どもがかわいいのだから、子どものために何をしたらいいのかっていうのはどこも一緒なので、対立することはまずあり得ないですね。どちらかがはき違えているのです。校長先生とも仲良くなって。そして校長先生から見たら、何か先生が子育てに悩みがあるとかみんな話せば楽になるのです。だから一応そういうものを会として何かア

ピールしたいと思うのと、子どもの多様性をもう少し考えれば。例えばこういった大分、田舎にもどんどん子どもが育つと思います。すいません。

【松尾委員】 皆さんこんにちは。今日は私も代理で参加しております。県の校長会の副部長をしております松尾と言います。よろしくお願ひいたします。今日は古谷が参加する予定でしたが、古谷が先ほど出ましたが、各委員から事前にいただいたご意見等の中にこういうことを書いていますので、これをご紹介したいと思います。3ページの下の方に書いてあります。

まず1点は、今の小学校中学校の学校現場の様子を古谷が書いていますけれども。「ワークライフバランス」と言って、毎週の定時退庁日を各学校ごとに決めて、と。ちなみにうちの学校は金曜日に決めているのですけれども、なかなかどうしても帰ることができません。ですので、何とか5時半ぐらいまでにはみんな退庁しようというふうに努力をしております。

また、大分市では幼稚園、小学校、中学校全部、全教職員がいわゆる一斉の定時退勤ということをして、第3水曜日に設定しています。こういうことを決めることによって計画的な、余裕のある職務の遂行と意識改革が進んでいるという方向です。

そしてテーマ②ですが、負担軽減ということなのですが、管理職を中心にとということを書いてあります。本校でもここに書いているように出産、育児をしている教職員がいましたら、できるだけ職員室の近くの教室に配置する。3階の遠い所に歩いて行くのは大変です。なるべく近い教室を配置に入れることによってサポートしていきますし、また、休憩室の整備等もしているところです。以上です、よろしくお願ひいたします。

【神田委員】 皆さん、こんにちは。保育連合会の神田です。私も3期目の委員になりました。またよろしくお願ひいたします。先般、保育所と認定こども園等の九州保育三団体研究大会がございまして、そこで大分県の方ではホームスタートの発表をさせていただきました。ホームスタートと言いますのは訪問型の子育て支援なのですけれども、ホームスタートが全国を見ましても、大分県が一番活動が活発でありまして。その発表をさせていただいたのですけれども、その場で助言の先生から、「子育て満足度日本一の大分県ですね」と言われまして、「ああ、ここまで皆さんご存知である」と、私はとても嬉しく思いました。これからも、うちは保育園なのですけれども、見えている子どもたちだけではなくて、家庭に届く支援をしていきたいと思っております。

それと、5年間大分県で就労をすれば返さなくてもいいという奨学金制度ができまして、

高校生がその情報を聞いてとても喜んで、「先生、保育士になりたいけど家が大変だから就職しなければいけない」というお子さんが多かったのですが、とても喜んでいますが。この場を借りましてお礼を申しあげたいと思います。ありがとうございます。

私は今高校3年と1年の子どもがおりまして、2人とも当園を出ているのですが、上の子が卒園する時に、「お母さん、小学校に行ったら参観日はお母さんが来てくれるよね」と少し泣きながら言われまして。その時、私は仕事ばかりで親として携わっていなかったな、と深く反省しまして、今までもうほぼ99%、PTAには参加しております。ですので、うちの職員も全員、主な行事以外はすべて学校行事に参加するように、と言っております。そこで子どもも育つ、子どもも心が豊かで私たち母親も心豊かに子育てができればいいなと思っております。高校3年生ですので受験になりますが、3月まで私の顔が暗くならないように皆さん、どうぞ見守ってください。よろしく願いいたします。

【片桐委員】 皆さん、こんにちは。日本労働組合総連合会連合大分の片桐と言います。私どもは子育てしやすい職場環境をつくるということで働き方改革をやっているというところでございます。その中で私自身も3人の子どもの子育てをしながら、妻も共働きで、子育て制度、支援制度等、さまざまな制度を使いながら日々何とかやっている、というところなのですけれども。妻から言わせれば保育園に連れていっただけが子育てではない、というふうにいつも怒られながら何とか少しずつですけれども、子育てを一緒に協力的にやっっていこうというふうに思っているところでございます。

私自身感じているところということでいけば、私自身はそうなのですが、地域で近所の子どもの名前を親が言えるかな、と。地域で子育てするというところが将来的にやっっていけばいいのかなというふうに、子育てをしながら思ったというところでございます。どうぞよろしく願いいたします。

【賀来委員】 公募委員の賀来千恵です。今年から委員をさせていただきます。よろしく願いいたします。私は長男が10年間子育てと家庭に専念してきたのですが、3年前に1日4時間の仕事をさせてもらったのですが、1日4時間でも子どもが病気だったりとか、学校、幼稚園の行事があったりした時に、結局私が全部考えないといけない、と。旦那は高校教員なのですが、全くあてにならなくて。仕方がないですね、仕事なので仕方がないのですが、やっぱりフルタイムでもないのにこんなに大変なのだな、とすごく実感しました。

今年から長男が中学生になって、次男も小2なので今日も両親に預けているのですけれ

ど、もう小学校になった途端に充実するなと思って。自分でやりたいと言うし、やれると言うので。本当に子どもは、手は離れるけれど目は離れずにやっていきたいと思うのですけれど、手をかけないといけないのは小学校を卒業するまでの何年間で、ここを過ぎれば結構楽になるな、と思いながら今子育てと仕事の両立をして、たくさんお母さんたちや子どもたちに接する機会があるので、リアルタイムでそういう経験を生かしながらやっていけたらなと思います。

私は 1972 年生まれで、第二次ベビーブームだったのです。自分の小学校中学校がものすごいマンモス校だったので、今別府市内の小学校中学校に子どもがいるのですけれども、運動会に行った時にもものすごく子どもが少ないな、と思って。運動場がすごく余っているなと感じます。昨年小学校が合併して、100 人増えたのです。その時に子どもたちが「すごく増えて楽しくなった」と言っていたので、もっともっと子どもがまた増えてきたら、と思っています。よろしくお願いします。

【小川委員】 皆さんこんにちは。NPO 法人アンジュ・ママンの小川と申します。私は豊後高田市で子育て支援を行政や地域と連携しながら、ささいな取組をさせてもらっています。今日は地域子育て支援「花っころム」という子育て支援、子育てひろば、つどいの広場の代表として出させていただいておりますが、今日は遅れて申し訳ございませんでした。やはりこの広場に来てくれるお母さんたちの声を丁寧に聞くという作業をしております。そういうこともどういう事かと言いますと、やはり背景いろいろありまして、お母さんたちとの信頼関係を築いていくことで大事な話をしてくれたりとか、そんな時にやはり私たちの役割というのは適時適切な所につなぐということだと徹底してやっております。

例えば、今日のお昼前もそうなのですけれども、通所している所で泣いてしまいましたとか、そういった話はやはり信頼関係がないとそこまでの話はしてくれません。まずは敷居が低い所がどこなのか、こういう広場づくりというものをやっています。

地域という言葉が冠についておりますので、今日も来る前に広場に関わって 14 年、14 歳の中学校 2 年生の子どもたちの職場体験で、そこで育った赤ちゃんが、第一期生のそのお母さんとその赤ちゃんが現場で職場体験をして、広場のスタッフとして働いております。そんなふうに関験が少ないお子さんたちが非常に多いと思いますので、いろんな意味で拠点は可能性があると思います。ですので、そういった意味でも、ただ親子が集う、保護者が集うだけではなくて、地域の方との交流というところを主に置いて続けていかなければ

ばというような目標も持っています。

そして先ほど働き方改革という言葉がありましたが、私たちは子育て真っ最中の母親が20人集まって活動しておりますが、やはり様々な支援者側の様々な背景がありまして、就労を希望される方、ダブルケア、介護もされている職員、それから自分自身の身の振り方を考えると、でも子どもが大きくなったから働けるようになったとか、さまざまな背景がありますのでそういったライフデザインも考えながら、そういった女性の逆に大変な部分があるのです。大変な部分が実はあるのですけれども、これは働き方改革の推進的な事例だというふうに私たちは前向きにとらえ、多くのお母さんたち、うちのスタッフは女性なので、そんなお母さんたちが、先ほどありましたように、自分の子どもとの関わりの時間が持てる、そして仕事もできるような、支援者を支援するやり方というものを行っていくべきだというふうに思っております。お父さんたちとも支援を共有することが、非常に重要となっておりますので、ぜひぜひ今後もお父さんたちの参画をお願いしたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

【尾家委員】 初めまして。大分県児童養護施設協議会の方から推薦をいただいてまいりました中津市の児童養護施設「清浄園」の心理士をしております尾家と申します。よろしくお願いいたします。このような大きな会議は初めてでございます、非常に緊張しております。

私は3歳になる息子を1人育てておりまして、おそらくうちの施設で産休育休を取った第一号でございます。社会福祉でございますので、生活の場の職員さんたちというのはなかなか結婚して育児をして、それでも仕事に入りつつ主婦をしていくことがなかなか難しい状況でございます。要は働き方改革が10年ぐらい遅れているかな、というところはあるのですが、それでも徐々に少しずつ変わってきているところでございます。私自身、このような場は初めてなので、個人としての立場と社会的な視点とどちらを出していいのか少し戸惑うところもありますが、よろしくお願いいたします。

せっかくこのような場に出させていただいたので、企業の方だったり教育の方だったり、福祉の方だったり、民間の方だったり、いろいろな方々がいる場所に出させていただいたので、いろんなネットワークという視点から入り、より有意義なものを持ち帰られたらと思っております。私は実は長年大分県の方で働いておりますが、実は大分県民ではないということで、この場に一番ふさわしくないのは私かな、と思っております。そのところは生活圏が大分ということでご容赦ください。よろしくお願いいたします。

【内田委員】 皆さんこんにちは。私は民生委員児童委員協議会の方からまいりました。書類にちょっと間違いがありまして。大分県民生委員児童委員協議会の副会長と書いてあるのですが、副会長ではなくて、県の方は会計監査をしております。大分市の坂ノ市の方、東部の方に住んでおります。

私は小学校に 35 年ぐらい勤めまして、その間に 3 人の子どもを育てました。その頃のことを思い出しますと、今の子育てとは本当に相当違っておりまして。職場でいつも悪いなと思いながら、本当に小さくなってどうにかこうにか勤めたというような、そんな思いでした。県とか、それから地域の人ですね、そういう人たちが相当助けてもらいました。今のように朝ちょっと早く集まってくれるとかいうこともなかった時代でしたので、本当にその頃のことを思うと、今は民生委員としてそのことが活動に生きているというような気がします。民生委員をしております、高齢者の支援が中心だったのですけれど、やはり子育て支援をもうひとつ大切にしなければならないということで、今私が住んでいる所は大分県内でも人口が増加しているところです。子どもも増えておりますし、結構活気があります。人口がやや増えて一戸建ての家が随分増えてまいりました。それでも子育てに良い若い力を感じておりますが、民生委員みんなで子育てサロンに月 1 回は全員で集まって、お母さんと子どもを迎えると。これは行政の皆さん方も結構集まって、今 30 そこそありますけれど、増えてきました。その少し前に赤ちゃん訪問の事業を保健所の方が取組んでおりまして、それを市民住民と教育担当で依頼があった分を訪問するというようなことを 7、8 年しているのですが、その活動の中で子育てサロンもしていますよ、というチラシを持ってお母さんたちに PR をしに行くと、耶馬溪の辺りです。私たちは、もう小学校の卒業式とかに行きますと「ああ、あんな時期もあったな、大きくなったな」とかそういう姿を見ると、関わったことで子どもの成長も見届けることもできるというふうには、保健所とかそれから市の職員、皆さん方からお聞きしております、子育てサロンも一生懸命取組んでいます。主任児童委員という専門もおりますけれども、何をしていたか分からないという時期があり、そういう時期の指導に大忙しになっておりまして、定期診断になってから子育てサロンの準備をして、いろんなご家族が準備とか介護とかそういうのがあって忙しいのですが、充実した指導になっているのではないかとこのように思っております。その立場の中で、時々やはり解決をしなければいけない、というふうな問題もあります。子どもとお母さんの安全性とか、そういうのを行政の方々と話し合いをしながら進めていきたいというふうに思っております。私の 3 人の子どもはもう 50 代、

40代になりまして、とりあえず結婚してくれまして孫が5人いますので、そのうちのその姿を見たらと、今頑張っております。よろしくお願いします。

【糸永委員】 自治会の代表で今年初めて、自治会が初めて参加したということで。私が代表で出てまいりました糸永です。大分市の連合自治会の代表ですが、もとは滝尾地区というところの連合会、そのもとは米良地区というところになりますが、米良の自治会という。子どもは、私は子育てで言いますと子どもが3人、それから子どもたちがつくった孫が8人、昨年暮れに孫の一番上の女の子が出産しましたので、これがひ孫。孫関係9名。その数の多さで推薦されたかなと思っておりますが。皆さんが子育てをしている世代の人を見ると大変私は勇気が湧きます。やはり日本のため、地域のためになっているなどそう思いますので、この会に出て、あまり専門的なことを勉強したこともございませんが、事前の調査の分に目を通しますと、いろんな観点からの子育ての必要性というようなことがよく分かりますので、学習したいと思っております。

それから知事さんがずっと残っておられてお話を聞いておりますので、私は機会があれば会長が、部長が自治会連合会の役員が全部集まる会がありますので、子育て応援、これをちょっと本腰入れてやれよというようなアピールをする場があるといいなど、先ほどからお話を伺っていて思いつきました。というのは、連合自治会などの世話をしている我々世代は現職を辞めて、そしてボランティア活動の一環でやっております。ですから、かなりの年齢層でありますので、関心はむしろ健康寿命。この延伸をどうするかと、自分自身のことを含めて関心の向きはその辺です。この会議に出て資料を確認しますと、小さい人たちが大事に育てということも大変重要な側面です。ですから、そういう面も忘れないように応援しろよ、という意味のアピールがあつていいのではと、そう思っております。

私事で恐縮ですが昨年私は金婚式でして、女房と2人でフランスに行きました。この会議に出て思いついたのですけれど、フランスでいろいろ聞いてみた中に、フランスはやはり日本の文化とは全く違う。個人主義の国です。ですから子育てとか何とかいう面は、結婚して子どもができようがそうでなくて子どもができようが、できた子どもは国の宝。だから国の力で年金をやる。子育ての経費も教育費も結婚して、要は戸籍を入れたそういう人と同等にフランスは面倒を見るぞ、と。そういう、われわれから見ると荒っぽい行政をやっておるなど。しかし、やはりそういう枠を外した発想、そこら辺もあつていいのではないかというのを去年フランスで触れてみて、話を聞いてみて感じました。とりとめがありませんが、これから学習をさせてください。糸永です、よろしくお願いします。

【有馬委員】 皆さんこんにちは、大分県臨床心理士会の子育て発達支援の担当をしております有馬と申します。よろしく願いいたします。私の現在の仕事は、大分県のスクールカウンセラーと、それから大分大学に心理教育相談室という親御さんと子どもさんで、あるいは成人の方もそうなのですけれど、そこで専門相談員をしております。そしてもう1つは一昨年辺りから2つの市の保育園幼稚園こども園の巡回相談をさせていただいております。いろんなことをしているようですが、根っこは1つで、子どもに関わる親御さん、特にお母さまとお話しすることが多いのですが、お母さま、それから保育士の先生方、子どもを支える方のフォローと言うか、そういう役割でお仕事をさせていただいております。ほとんどの所は皆さんご自分たちで、お母さまもそうなのですけれども、やれることは全てやった、しかしながら子ども子育てにだけ困っている。どういうふうにしたらいいか道に迷っているというお母様方が多いのです。ですから私どもは専門的な立場から、その子の発達の部分とか、あるいは環境の方を整えればよいのではないとか。それから検査等いたしましてその子が持っている強い力をお伝えする。そしてお伝えするだけではなくて、お母様が普段されていることを十分お聞きしまして、それをポジティブにフォローしていく。支持的に聞いていくということを通して、もう一度保護者の方や先生方に子育ての楽しみを味わっていただく、ということのお仕事をさせていただいております。

私自身の子育ては2人なのですけれども、生まれてどうしても手放したくなかったものですから10年間やっておりました小学校教員は即辞めて自分で子育てをしました。そして私の子どもたちは2人とも、華々しい学歴を持っております。おかげさまで1人はイギリスに行っての間帰ってきました。そして1人は地元でずっとおります。子育て終了したはずなのですけれども、狭い狭いマンションに大人が4人ミチミチと暮らしております。これも1つ良いのかな、と思いながら生活をしているところです。

そして相手のことなのですけれども、子育てをする時に私は県外におりまして、夫はそうそう帰って来られない仕事だったのですけれども、さほど苦勞しなかった。なぜ苦勞しなかったかと言うと、地域の方、福岡県だったのですけれども、福岡県はとてもお声かけをしてくださる方が多くて全然孤独じゃなかったですし、何かあってもみんなで力を合わせてくださいました。それはもう女性の力の結集ということだったと思います。

それで実際高校生などの面接をしておりますと、どうしても女の子とうまくやれずにボーイフレンドだけが多い子がいるのですけれど、カウンセラーとしてあるまじき言葉なの

ですけど、「男の子なんか役に立たないのよ」って。「絶対役に立つのは女の子のお友達だから、女の子の人間関係を築いていこうね」ということを言いますと「はぁ」という顔を最初はするのですが、高校1年、2年、3年となっていくとその言葉の意味が分かってくるようです。もちろんイクメンとか男性の育児参加というのは大変必要だとは思いますが、とりあえず同性同士の関係というのを一生懸命勧めているところです。よろしく願いいたします。

【衣笠委員】 公務で遅れて申し訳ございません。1時間も遅れてしまいましたけれども、私は大分大学の福祉健康科学部で学部長をしております衣笠と申します。よろしく願いいたします。会議が長くなりまして1時間ほど遅れてしまいまして、少し順番が狂ってしまい大変申し訳ございません。少し皆さま方のお話を聞いていて、私はこの審議会は2期目を務めさせていただくのですが、てっきり1期目でクビになるだろうと思っていました。と申しますのは、あまり意見が合わないのです。そう申しますのは、私は専門が社会福祉ですので、社会的に子どもをどうやって育てていこうかという、そういう仕組みを考えて仕事をしております。今皆さんの口からはご家族がとか女性がとかいうお話が、もっと言えば子育て支援とか、その子育て支援と言った時に何を支援するのだろう、誰の支援を念頭に置いているか。お母さんとか家族がすることが前提だから、その支援と言っているのではないですか、というふうに私自身は思います。

昔、在宅高齢者の介護支援という言葉がありました。最近も聞きますけれども。お嫁さんが介護するのが前提だから在宅介護支援センターというのがあったのです。では子育て支援をしていこう、お母さんの支援をしていこうと言った時に、私は発達障がいの子どもたちとか、生活困窮状態や虐待されている子どもたちとかいろんな子どもたちを見ていて、本当に家庭の支援とかお母さんとか、社会的養育がこれだけ言われている状況があるので、子育て支援とは一体何を意味するのだろう、ということから議論をしていただければありがたいということを前回、昨年度の最後の審議会の時に申し上げたのです。

ですので、いろんな方々が経験に基づいていろんなお話をされたと思いますけれども、私ども社会福祉の立場からすれば、子育てをうまく受けられなくて社会のルールに乗っていくことができなかった子どもたちをどうやって受け止めながら、その子たちが精一杯生きていくことができるような、そんな社会の仕組みづくりをしていくのか、ということを通じてこの会議の中でお考えいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

【岡田委員】 大分大学の岡田と申します。私は娘が2人いるのですが、大学2年生と高

校2年生でほぼ子育てはひと段落しようかなという意識にさせていただいております。その間、本職の家庭教育に加えまして、PTAの会長をしたりとか、おやじクラブの活動を今も続けていたりとかいろいろしたのですが、結果的に仕事や社会的感想を言える場はなかなかなかったので、子育ての家庭外の通知表は結構厳しめというところで。先ほどの賀来さんの「旦那はあまり頼りにならない」という言い方はちょっと胸に突き刺さった気がしております。

でもだんだん子どもが育ってくるとまた違う展開になってきて、子どもがそこに関わってくるようになってきているので、うちは今大学2年生の方は東京の方に行っているのですが、東京の在京県人会ネットワークというような活動をしていますし、今日の夜に羽田を立って、おもてなしを学ぶことをしてまいります。観光とかでもそのうちお役に立てると良いなと思っております。

下の高2の子はもう幼稚園教諭もしくは保育士専願でございまして、もう別府大学短期大学に行く、と決めております。そういう意味で、保育の現場を支えてほしいと今思っているところでございます。妻も体協で活動するとか、その家族が地に根差して活動しているのを支えられているな、という実感を持っております。

併せまして、私は今19年経つのですけれども、あれこれと活動をしていますと、「小川さんとまたここも一緒だったな」とか、「古谷さん久しぶりだな」とか、「幸野さん、パパくらぶか、じゃあ大西さんの知り合いなのかな」とか、直接、間接にいろいろつながれてしまうもので、そういうつながりができるというのは、やはり大分県の子育てを考えていく、すごく大きな起点ではないかというふうに思っています。個人で動くのに加えて家族とかで線でつながって、さらにいろいろな人と抽象的なネットワークでつながって面で子育てできるようになればな、ということと、そう楽天的に考えながら関わっていただければというふうに思っています。よろしく願いいたします。

【仲嶺会長】 会長の仲嶺です。私も何か言った方がよろしいのかなと、多少今慌てております。では改めまして少しの時間をいただきます。たくさんの方がいろいろなご意志のもと、それからこれからここで議論していただきたいこと等をお話くださいましたけれども、私の大先輩方もこの会議に参加、出席をされておりますけれども、私の時もまだ育休もなく、産前産後6週間ぐらいというところで。実際、今仕事ができているのはその時に知り合いのおばあちゃんがお二人、仕事を辞めるというふうになっていたところを「私らが子どもを見ちゃるけん仕事しろ」と言ったんです。それで今に至っている状況で。し

かもそのおばあちゃんたちに「あんたが育てんでよかったな」みたいに言われてしまって、母親の面目丸つぶれというような子育てをしている状況なのです。しかも女性に重くのしかかっていると言われる中、その当時、保護者と一緒の遠足で男性は園長と主人だけだったと言うぐらい分担してくれるパートナーがおりましたので、なかなか私の場合は、実は育成クラブもなく、それから二次保育もなくという状況の中で。しかもそういう縁者を頼ることもできず、本当に知り合いの方に助けられた子育てというところがございました。その人たちの思いを非常に温かく受け止めて、そうやっていただいたことを今度は自分がどう皆さんに返していったらいいのか、という思いで今、幼児教育に携わっております。

先ほど自治会長さんがおっしゃったのですけれど、先般少し小学校の子ども会の集まりに行きまして、そこで親子遊びとかをしたのですが、とてもたくさん集まられたのです。60組ぐらい親子さんが集まられて、1年生から、ご兄弟も見えているので6年生までみんないたのですけれども、楽しくスポーツ遊びとかをして触れ合いました。そこに自治会長さんも、3方面の自治会長さんもちゃんと出席くださっているし、それからそれ以外の小学校に関係する方々も普通に参加なさってくださっていたので、夜ではありましたが、でも「ああ、こういうふうな形で地域の方々も交流会とかに積極的に参加してくださっているのだな」というふうな現場を拝見させていただいて、少しそういう皆さんの温かい今の支援を感じたところです。

私が生まれ育って住んでいた場所は非常に下町だったものですから、八百屋さんもあれば魚屋さんもあれば、というそういう場所で。私が小さい子を連れていきますと、八百屋のおばちゃんが「先生、子どもが病気した時だけのお金は握っところな」とそう声をかけてくれたのです。今、私はそれが根っこというか、本当に昔の方の子育ての本当の心だな、というのをその時に感じ取って、「ばあちゃん偉いな」というような話を日常でできたことが非常にありがたかったな、というふうに思っております。そういう思いで子育てのことを話していければと思います。少し長くなって申し訳ありません。

皆さんがいろいろお話くださったので、少しフリートークの時間が少なくなりましたが、けれども、およそ15時20分までがフリートークの時間となっております。

それで「おおい子ども・子育て応援プランの推進について」、プランの第3期計画で定めております基本施策をテーマにご協議いただきたいと思っております。

まずテーマ1の「子育ても仕事もしやすい環境づくり」です。委員の皆さんから事前にいただいておりますご意見につきましては、資料の2に掲載しております。どなたからで

も結構でございますので、事前に提出していただいたご意見の補足説明も含めまして自由にご発言いただきたいと思います。資料の方をどうぞご確認ください。

【藤本委員】 よろしいですか。

【仲嶺会長】 はい、お願いいたします。

【藤本委員】 藤本です。今日の資料1の5ページ「病児保育充実支援事業」というのがありますが、先ほどから感じることは、ここでは定義は、「保護者が就労等で病気の子どもを自宅で看護できない場合、病院や保育所等に設けた専用スペースで病気の子どもを保育する事業」というふうになっておりまして。保育所も病気の子どもを親の代わりに預かって、親が就労を維持するというふうに捉えられがちなのですが、われわれは視点を病気をした子どもに置いております。病児保育をやっている側といたしまして、結果として親の就労を助けることは、それは副産物としておおいに喜ぶべきですけれども、実はどのような親御さんであっても子どもが病気した時に、果たしてどうしていいのか非常に不安だと知っているから、こういう親子の危機が正直なところでは、誰もが通る道です。親子の危機を回避して、親子の絆、アタッチメントをより深くすることが病児保育でまず強調しておきたいと思いますので。

実はそんなこともあって、就労等とありますけれども、必ずしも母親、両親が仕事ではなくともこの病児保育は事業の性格上、利用できます。基本が就労と子育ての両立支援という文言になっておりますので、どうしても親が働く、親を助けるというイメージを多くが抱えられているようなので、その視点を変えていただきたいというふうに最初にお話しさせていただきます。

【仲嶺会長】 ありがとうございます。ではそちらの委員さん、お願いいたします。

【坂本委員】 早めに発言させていただきます。今日僕は初めて内閣府の子育て支援事業の子育て応援パスポートを見させてもらっているのですが、子育て支援は創造事業でもあるのです。利用側のレビューをどんどん上げてもらえばいいと思います。そうしたらこの町にある企業は非常に子育てを支援しているんだと思う。例えば会社でも、〇〇会社だったら子どもが急に病気になって休んだ。だけど社長が「いいよ、子育て頑張って」と言って帰してもらった。そういうレビューを上げてもらったら、レビュー件数が上がるでしょう。それを出力して、その結果をある程度公開するのです。そうすると結局企業もそうした方が店の売上がアップします。そこはやはり創造事業、結果的に成果を出すと、そういうふうに思います。

【仲嶺会長】 ありがとうございます。はい。

【富高委員】 私、藤本先生のお話を聞いてとても嬉しかったです。もしかしたら今働いているママたちの中では、病児保育が充実すればもっともっと仕事ができるのに、という、その視点から病児保育ということをよく話を聞くのです。でも先ほど藤本先生が「違よ、子どものことを一番に考えているんだ」という、そのところが本当に嬉しかったです。それがもっと広がらないといけない、というふうに思います。

会社に勤めているにしろ、家で子育てをしているにしろ、子どもが病気になった時に子どもが心細いのは、お母さんやお父さんが側にいないということです。どんな薬があっても、やはりおうちの人が側にいて手を握ってくれたり、お腹をさすってくれたりということは子どもが一番望んでいることです。だから働いているおうちの人には介護休暇、というものは国の方でも充実してはいますが、子どものための看病休暇のような、そういうものを増やしていったり、先ほど言われたようにきちんと家で子どもの看病や子どもの育児ができる職員は仕事もすごいノウハウを持ってきちんと仕事ができる職員なのだ、ということ企業も何かアピールしていくような。ぜひ病児保育ということを進める時には子どもの気持ちを忘れずに皆さん、広げていただきたいと思います。藤本先生のお話を聞いてとても嬉しかったです。

【仲嶺会長】 関連してなくて結構でございますけれど、他にございませんでしょうか。

【幸野委員】 今病児保育というので、妻から言われたことを思いだしたのですが、私も含めて病児保育を利用させていただいたことは非常に助かったのですが、病児保育は申し込みの時にすごくハードルが高いのです。というのは、まず仕事を休んで本当は看病したいのにそれができない。ものすごく辛い気持ちで病児保育に送り出しました。最初に病児保育に入れる時はどういったところか全く分からなくて、子どもが泣くのではないとか、他の病気を移されるのではないとかすごく不安でした。そうして我々は預けた所はすごく環境が良くて、保育士さんがいてすごく楽しい、という話をしています。ただそういうのがなかなか働くお母さんにはまだ見えていないのかなと感じています。チラシみたいなもの見たりしたのですが、なかなか詳しいことが書いていなかったらしくて。

例えばこういった、子どもを交えたこういうカリキュラムでしています、とか。うちの子どもは一緒に人形を作って、保育園と一緒にぐら楽しかったと言っていました。そういったこともやっていますとか、何かそういった中身をもう少し知ると、安心して預けられるような中身をつくっていただければ、そういうのを見て、いろいろチラシとかを作って

配布していただければということをお私としては思いました。

それから、いろいろお話を聞かせていただいて、私は最初のご挨拶の際に男性の子育て参画、非常にお父さんたちが増えています、イクメンのお父さんが増えていますよ、というようなことを言いましたけれども、なかなか私の旦那さんは手伝ってくれないとかそういう言葉を聞きましたので、非常に心苦しいところなのですけれども。

なかなかやはり男性というのは、子育てに対する意識というのは今高い人と低い人にもものすごく差があるのです。最近若いお父さんといろいろと話す機会があるのですけれども、若いお父さんたちはものすごく今子育てに対して意識が高くなっているのですけれども、なかなかやはり仕事が遅くて帰れない。職場の理解もないということにすごく悩んでいました。私自身も実際会社勤めなのですけれども、全くそういったワークライフバランスというようなものは定着していなくて、非常に辛い思いをして子育てをしていました。

イクメンという言葉がありますけれども、イクメンという言葉は本当は私はなくなった方がいい、と思うのです。お父さんお母さんが一緒に育てるのは当たり前の中になると、イクメンという言葉はなくなってしまうと思いますので、まず本当に社会として男性も女性も平等に働けて子育てができる環境を整えて、ワークライフバランスというこの言葉をもっともっと推進していく働きかけをしていきたいというのが切なる願いです。

【仲嶺会長】 ありがとうございます。時間の方が15時20分というふうになっておまして、次のテーマ2の方の「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進」というところで、実は意見交換を取りたかったのですがございますけれども、どうしてもこのことについてだけ、ということがございましたら挙手いただいてご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

はい、土居先生お願いします。

【土居委員】 土居でございます。意見の方は文書になっておりますのでまたぜひ見ていただきたいと思いますのですけれども、5ページの上にも書いておりますが、やはり、先ほどのお父さんお母さんたちが元来子どもをしっかり抱きしめて育てたいというのは、これは当たり前でございます。ただ当たり前ではない状態もありますから考えていただきたいのです。通常抱きしめられる環境をつくるうえで、0歳児保育を家庭でできる体制が何とかできないか。これは将来にわたって、0歳児をしっかり保護者が抱きしめることによって、将来の子どもの育ちが変わってきますので、基本だけ制度ができております。そのことを事業化、何とかしてほしいという要望です。

そしてもう1点、この子育て会議の3回、4回になってくるにあたってぜひ質の向上を目指していきたいと思っております。そういう意味では先ほどの説明の中に保育士の確保であったり、幼稚園教諭の確保等々のことも紹介していただいたのですが、それをやっている現場の質の向上をするためにぜひ、何度も言っていますが幼児教育センターの創設を。形ではなくて、ものを考えていただきたい。こども未来課の方も教育委員会の方もいらっしゃいますので、これはどの部がどの子どもたちを見るということではなくて、幼児教育センターの部分では研修制度をつかさどったり、これは福祉も教育もございません。そういう意味で地域そのものが軸となる事業案に今年度は取組んでいただきたいと。

福井県の幼児教育センターは非常に有名でございますが、たまたま今年度中に視察にまいりますので、良ければ誰か担当の方が一緒に拝見させていただいて、指示いただけたらありがたいかなと思っておりますので。この充実をすることによって幼児教育の底上げが必ずできると思っておりますので、どうぞよろしく。

【仲嶺会長】 はい、ありがとうございます。すみません、まだまだご意見等あると思いましたが、時間もなりましたので、意見交換につきましてはここまでにいたしたいと思っております。貴重なご意見、ご提案ありがとうございます。

それではこれで議事を終了いたしたいと思っております。議事進行につきまして事務局にお返しいたします。

【二日市課長】 委員の皆さま、ご意見ご提案ありがとうございます。知事からコメントをよろしいでしょうか。

【広瀬知事】 今日も大変素晴らしいお話をいただきましてありがとうございます。最初、自己紹介もかねて委員の皆さん方からお話を伺いましたが、大変今回も、非常に子ども子育てについて経験豊かと言いますか、大変おもしろい県民会議ができるのではないかと楽しみにしております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

それから、せっかくの機会でございますので、いくつかご意見をいただきました。最初に藤本委員から病児保育のあり方についてお話がありましたけれども、昨年でしたか、この病児保育について、やはり相当この考え方について議論があつて、ワークライフバランスのための病児保育ではないのだと、子どもの病気を治すというためのものだということをしっかり重心に置いて考えましようというお話があつて。それはそのとおりのだけれども、しかしなかなかそこまでできない事情があるので、できないと言うか、そのとおりのことだけでも子どもさんが会社を急に休んで子どもさんの面倒を見るわけにはいかない

事情があるので、そのこのところをどう病児保育のシステムでカバーできるかというような議論があったような気がいたします。基本は全部同じだし、忘れないで病児保育制度の充実を図ることが良いかと思うところでございます。

それから幸野委員からお話がありました、やはりワークライフバランスは非常に大事なもののだけれども、なかなか男性女性それぞれが仕事をしながらの現実の問題として、ワークライフバランスのパートナーに満足いただけるような体制を整えてほしいというお話もございまして。それはそれで昔からの課題なのですけれども、そこについて、だからと言って委員が言われたように、やはりワークライフバランスが取れるような仕事をしたいというのをしっかり考えていかなければというお話もございまして、そのこのところをまたこれから議論をしていただきたい。われわれもそのような方式でこの委員会を進めていきたいと、こう思っているところでございます。

それから土居委員のお話がありました、しっかり抱きしめて育てるということですがけれども、これについてはそのとおりだと思うのですが、政策としてどういうふうにそれを生かしていくのかというところで、これから取組の方に生かしていきたいと思っておりますけれども。大変今日は非常に大事なお話をしていただきまして、これからの委員会が楽しみだというふうに、宿題ばかりで申し訳ございませんけれども、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

【羽田野主幹】 皆さん、大変ありがとうございました。また、仲嶺会長ありがとうございました。次回の県民会議の日程でございますが、10月12日の木曜日午前中を予定しております。よろしく願いいたします。

以上をもちまして平成29年度第1回のおおいた子ども子育て応援県民会議を終了いたします。大変ありがとうございました。